拓北・あいの里地区社協ミニ通信

この広報紙は赤い羽根共同募金の支援を受けています

拓北・あいの里地区社会福祉協議会
会長：渡邉　寛　　広報部長：森下　満

No 114　　令和 8年 10月 23日

10月7日(水)の社協常任理事会は、地区センター改修工事中のため中止となりましたが、各部の活動状況と今後の予定についてご報告します。



最低気温が 1 桁台となり、紅葉と落葉が一気に進み、秋が深まってきました。初雪はもう間近です。冬支度の時期になりましたね。

ふれあい交流部より

・9月25日（木）の「福まちサロン」は拓北会館に14名の高齢者が参加され、前回、前々回に続きせせらぎ保育園の園児10名（先生3名の付き添い）も参加し、園児によるステージ上での体操、一緒に歌の合唱、肩たたき、園児手作りのメッセージカードのプレゼントが行われました。その後、防災についての○×クイズ、モルック、くじ引きで景品贈呈、などを楽しまれました。
次回は11月26日（木）10：00～11：30、地区センター多目的ホールにて開催予定です。

・10月8日（火）のひまわりクラブは拓北ひまわり会館に5組11名の親子さんが参加され、自由遊び、いとまきのうたと肩たたきのてあそびうた、紙芝居の読み聞かせ、お子さんへの誕生日プレゼント、ハロウィンの折り紙リースのプレゼント、などを楽しまれました。
次回のひまわりクラブは11月10日（木）10：00～11：30、拓北ひまわり会館にて開催予定です。

・10月16日（金）の「ふれあいピクニック」は真駒内の保養センター駒岡に75歳以上のご高齢の方、スタッフ等を含め総勢31名が参加され、自由時間、入浴、昼食、レクリエーション（ゲーム、童謡・唱歌の合唱等）、ビンゴゲームなどが行われ、みなさんとても楽しく過ごされた様子でした。



14 名の高齢者さんたちが参加した、9 月 25 日の福まちサロンで、モルックをしている様子。



福まちサロンで、せせらぎ保育園の園児がステージ上で体操をしているところを高齢者が見守っている様子。



11 名の親子さんが参加した、10 月 8 日のひまわりクラブの様子。お子さんへの誕生日プレゼントをしているところ。



総勢 31 名が参加した 10 月 16 日のふれあいピクニックの様子。昼食を楽しまれているところ。

地域ケア部より



地区センターで 19 名が参加した、9 月 15 日の地域ケア部の例会の様子。

9月例会は15日（火）18：30～20：00、地区センター2階集会室にて、当会顧問の安藤裕啓（あんどう・ひろやす）を招き、「チームオレンジ活動報告」をテーマに行いました。地区センターでの対面のみで行われ、参加者は19名。

チームオレンジとは、認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、市町村がコーディネーター（オレンジコーディネーター）を配置し、地域において把握した認知症の方の悩みや、家族の身近な生活支援ニーズ等と、認知症サポーター（オレンジサポーター）を中心とした、支援者をつなぐ仕組みのことをいいます。

話題は、1. 経緯、2. 活動内容、3. 私が考えること、です。

1. 経緯： 2004年に厚生労働省が「痴呆」から「認知症」へと名称変更、2012年に同省が「認知症施策推進5か年計画」（愛称オレンジプラン）を策定、2024年に「認知症基本法」（正式名称：共生社会の実現を推進するための認知症基本法）が施行されるなど、国の認知症の施策としてスタートしま

［ 裏につづく ］

した。次いで、札幌市の施策として「チームオレンジ」がスタートし、2024 年に市内５区（中央・手稲・東・白石・厚別）で、2026 年には全 10 区に拡大され、北区でも実施の予定です。

2. 活動内容：まず、オレンジサポーターになるには、①認知症サポーター養成講座を受ける、②ステップアップ講座を受ける、③地区で登録、が必要です。チームオレンジの基本は、①ステップアップ講座修了者がいて、②認知症の人が参加し、③困りごとの支援を行うことです。オレンジコーディネーターは包括支援センターの職員が担います。

安藤がかかわるエリアの範囲は、東区第一包括支援センターの地域で、チーム名を「スマイルオレンジチーム　元町④番出口」と称し、毎週水曜日の 13 時から 16 時まで活動しています。今年から「チーム四つ葉」が追加されました。

実際の活動内容は、①第１週と第３週は麻雀チームとゲームチームに分かれて実施しています。第４週は本月の実績と来月の計画のミーティングを行います。②外出レクリエーションを行っています。（豊平公園、伏古公園、百合が原公園など）③認知症カフェ・「ある」カフェとのコラボレーションを行っています。④個別のマッチング（例えば大工さん、編み物、外出支援との）を行っています。⑤これまで支援してきた方々は、2024 年の若年認知症のＩさん、2025 年の若年認知症のＩさんと MCI のＯさん、2026 年の MCI のＯさん、Ｓさんなどで、一緒に活動をしてきました。

3. 私が考えること：①介護保険の財政的な問題：介護事業所の倒産の増加や小さい事業所の経営の困難など、介護保険の財政が行き詰っていることが背景にあるのではないか。②地域活動の必要性、どのような社会を望むのか：オレンジプランの目的である、「認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる社会の実現」には、地域ごとの活動が必要であり、チームオレンジとはまさにその地域活動ではないか。

会場からの質疑応答：①チームオレンジという組織ができるまでのプロセスは？　「スマイルオレンジチーム　元町④番出口」の場合、オレンジサポーターの間でチームオレンジを作ろうという気運が高まって出来たもので、包括支援センターの主導ではなかった。活動資金は札幌市から出ている。②活動の対象を認知症に限定しないで、子ども、障がい者などにも広げることで、活動内容の展開を図るのが良いのでは。③あいの里支所のチームオレンジのビジョンは？　北区の 1、2、3 包括で検討中。人々がアクセスしやすい場所、集まりやすい場所に、多世代が集まれるように、と考えている。あいの里では駅前、コープさっぽろ、東光ストアなどの近くが考えられる。

◇ 今後の予定 ◇

11 月例会は 17 日（火）18：30～20：00、北海道医療大学 ICN（感染管理認定看護師）の宮﨑佳奈子（みやざき　かなこ）さんをお招きし、「今年は早めに手洗いの再確認！～流行期に備えて感染防止対策を振り返りましょう～」をテーマに行う予定です。地区センター改修工事中のため、北海道医療大学病院で開催、院内見学も予定しています。

▌ボランティア企画部より▐

・生活支援ボランティア活動（サポートたくあい）の実施状況について。

９月下旬に１件の依頼がありました。ご高齢世帯からの、庭の草取り及び飛来した落種で生えてきた不要木数本の処理です。サポートたくあいでは対応が難しいと判断し、造園業者を紹介し、そことの間で実施日等の相談をしていただくことにしました。

▌総務部より▐

・福祉施設見学研修

10 月２日（金）、札幌市東区北 33 条東 14 丁目 5-1 の「パン工房ひかり」を参加者 13 名で訪問しました。ここは精神障がい者通所授産施設で 2003 年に建設されました。その２年前、突然札幌市より新設計画が提示され、それに対して住民の反対運動が起こりました。地域の新道東町内会は「知らないことは偏見につながる」とし、同じような施設の視察や先進地域の勉強会を行うなど、検討に検討を重ねて受け入れを決定し、町内会役員が反対住民を根気強く、粘り強く説得したのです。地域には町内会活動の拠点の場がなく施設の地域開放に関する期待もありました。施設建設、事業開始以降、地域住民の施設の運営・行事の協力、施設利用者等の地域行事への協力を通して、住民同士のつながりが深まり、地域全体として福祉への理解が促進されました。また、日常的に町内会の会合や、近隣マンション等の会議、「サロンよつば」の会場としても施設が開放され、施設が地域活動〈町内会〉の拠点として機能するようになりました。このような福祉施設と町内会、地域住民との関係は、ひとつの理想像の実現であり、参加者一同、深い感銘を受けました。



13 名が参加した、10 月２日の施設見学研修の様子。パン工房ひかりで実際にパンを製造しているところを見学中。